

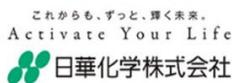
2020

環境・社会活動報告書

Environmental and Social Report

当社コーポレートウェブサイト

- <https://www.nicca.co.jp/>



ENGLISH お問い合わせ 検索キーワード

会社概要 事業・製品情報 イノベーション サステナビリティ 株主・投資家情報 リクルート NIC



当社では、コーポレートウェブサイト内のお問合せフォーム、代理店向けの専用サイト、フリーダイヤル、お客様相談室などを通じて、お客様よりお寄せいただいたお問い合わせに、迅速かつ正確にお答えしています。

また、いただきましたご意見は、お客様が満足頂ける製品づくりの参考としています。

当社ウェブサイトでの開示情報

■ 財務情報

- 決算短信 : https://www.nicca.co.jp/ir/financial_results.html
- 決算補足説明資料 : <https://www.nicca.co.jp/ir/presentation.html>
- 有価証券報告書 : https://www.nicca.co.jp/ir/securities_report.html
- 事業報告書(GLOBE) : <https://www.nicca.co.jp/ir/report.html>

■ サステナビリティ

- トップメッセージ : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/message.html>
- サステナビリティ方針 : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/policy.html>
- SDGsへの取り組み : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/sdgs.html>
- サステナブルな製品の開発 : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/development.html>
- 環境 : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/environment.html>
- 社会 : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/society.html>
- ガバナンス : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/governance.html>
- 各種報告書 : <https://www.nicca.co.jp/sustainable/reports.html>

報告対象範囲

本報告書の対象期間は、2020年1月1日～2020年12月31日ですが、一部、期間外の情報も含んでいます。

日華化学単体の活動内容およびパフォーマンスデータを主に記載していますが、報告内容に応じて、単体のみの場合、国内事業所と国内・海外関係会社を併記している場合があります。文中、当社と表記したものは日華化学単体を、グループと表記したものは、日華化学単体と国内・海外関係会社を意味します。

Contents

日華化学について

トップメッセージ	4
会社概要	5
経営理念	6
サステナビリティ	7
事業内容	9
ISOマネジメントシステム認証取得状況	10

環境活動

環境マネジメントシステム	11
事業活動における環境への影響	12
環境目標および実績	13
環境パフォーマンス	14
環境会計	19
環境への配慮	20
環境配慮型製品の開発	21

労働安全衛生活動

労働安全衛生マネジメントシステム	25
労働安全衛生目標および実績	26
労働安全衛生活動への取り組み	27

社会活動

地域社会とのコミュニケーション	28
-----------------	----

改善活動、内部監査体制

QCサークル活動、改善提案制度	29
内部監査	30

用語集



サステナブルな社会の実現に向けて、グループ一丸となって多様化する社会的課題の解決に挑戦し続けます。

代表取締役社長 **江守 康昌**

平素より私たち日華化学グループに温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

日華化学グループは経営理念である「世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー」を目指し、「Innovation」「Efficiency」「Sustainability」を軸として、未来に向けた様々な改革や挑戦をスタートしております。

Activate Your Life -これからも、ずっと、輝く未来。-

1941年の創立以来大切にしてきた「製品を売るにあらずして技術を売る」という日華化学グループのスタイルは、これからも変わることはありません。界面科学と毛髪科学を基盤として、私たちの暮らしを、未来を輝かせる、そんな技術を生み出し続けていきたいと思っています。

2020年度を振り返って

2020年度は前中期経営計画の「成長期」と位置付けた最初の年でしたが、2020年初頭から新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るい、歴史的な緊急事態となりました。

こうした未曾有の事態の中、当社グループはいち早くリモートワークをはじめとする様々な対策を講じて感染予防に努めると同時に、このような状況下だからこそできる新しい改革に着手してまいりました。コロナ禍により経営環境は一変し、売上高は対前年10.9%と大幅な減収となりましたが、日華化学グループ全社員が一丸となり、徹底した業務改善やコストダウンをはじめとする多くの改革を実施した結果、企業体質の強靱化が図られ、営業利益は1.5%の増益を達成することができました（連結）。

厳しい環境の中だからこそ得られたものも多く、我々が行ってきた改革が成果となって現れた大変意味のある一年であったと思っています。

事業構造を大転換し、社会課題の解決に挑戦する

2021年は創立80周年を迎える節目の年であり、2月には新中期経営計画「INNOVATION25」を改めて発表しました。新中期経営計画「INNOVATION25」では、循環型社会への移行やデジタル革新など激変する経営環境に対応し、新時代における企業変革を加速するため「環境 Environment」「健康・衛生 Health」「先端材料 Digital」の3つの領域（EHD事業）に軸足を置いた事業構造へ大きく転換します。

サステナブルな社会の実現に向け、多様化する社会的課題の解決に挑戦し、化学メーカーおよび化粧品メーカーとしての使命にお応えできるよう、引き続きグループ一丸となって邁進してまいります。

本書は、経営理念「お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す」のもと、当社の環境・安全・社会活動に関する取り組みの現状をまとめたものです。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後とも一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要

■プロフィール

当社は、界面科学と毛髪科学を基盤とし、繊維加工をはじめ、金属加工、紙・パルプ、クリーニング、メディカルの各業界向け薬剤、また化粧品などをさまざまな分野のお客様に提供する化学メーカーです。

私たちが創業以来大切にしているものの一つに、「製品を売るにあらずして技術を売る」という信条があります。その信条の通り、当社は1941年の創立から、創業地福井をはじめ、各国の世界有数の繊維産地を背景に培った技術・ノウハウを活かしながら、お客様とともに課題を解決し、技術やサービスを提供してまいりました。現在、海外においても8つの国と地域における各拠点を通じ、世界のお客様との対話を大切にしながら、ニーズに迅速かつ確実にお応えしております。

今後も、私たちは世界のお客様の価値を創造するという企業活動を通じて、社会・地球の持続可能な発展に貢献し、世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニーを目指してまいります。

社名（商号）	日華化学株式会社
本社所在地	〒910-8670 福井県福井市文京4-23-1 TEL:0776-24-0213（代）
創立	1941年9月15日
資本金	28億9,854万円
代表者	代表取締役社長 江守康昌 代表取締役副社長 龍村和久
上場	東京証券取引所一部、名古屋証券取引所一部（証券コード 4463）
決算期	12月末日
売上高	（連結）411億円（2020年12月期）
従業員数	（連結）1,500名（2020年12月31日現在）
事業内容	1. 繊維工業用界面活性剤の製造、販売 2. 金属、製紙、塗料、染料、合成樹脂用界面活性剤の製造、販売 3. クリーニング、業務用洗剤の製造、販売 4. 化粧品・医薬品の製造、販売
事業所	本社/NICCA イノベーションセンター/界面科学研究所/毛髪科学研究所 支店/東京、大阪、名古屋 営業所/仙台、広島、福岡 工場/福井（化粧品）、鯖江（化学品）、鹿島（化学品）、関東（閉鎖手続中） デミヘアサイエンススクエア/福井、東京、大阪、名古屋、福岡
国内関連会社	●山田製薬株式会社 ●イーラル株式会社 ●株式会社レコスマチック ●大智化学産業株式会社 ●江守エンジニアリング株式会社 ■ソルバイ日華株式会社 （他2社）
海外関連会社	●NICCA U.S.A., INC. ●NICCA KOREA CO., LTD. ●STC NICCA CO., LTD. ●PT. INDONESIA NIKKA CHEMICALS ●NICCA INDIA PRIVATE LIMITED ●NICCA VIETNAM CO.,LTD. ●日華化学（中国）有限公司 ●東莞日華新材料有限公司 ●台湾日華化学工業股份有限公司 ●広州日華化学有限公司 ●香港日華化学有限公司 ●DEMI KOREA CO., LTD. （他4社）

経営理念

日華化学の社是・社訓は企業理念であり、会社が存在し続けるかぎり不変の「創業者精神」です。

経営理念は、日華化学の使命を示す「存在意義」と方向性を示す「基本的価値観」とし、社員として守るべきものを「行動基準」と位置づけ、日華化学グループすべてに共有化されています。

経営理念

【経営理念】

お客様、社員、株主、そして社会から信頼され選ばれる企業を目指す

【全社基本ビジョン】

世界中のお客様から最も信頼されるイノベーションカンパニー

社是

- 一、われらは需要家に奉仕する
私たちはお客様と感動を共有できる高い品質を提供し続けます。
- 一、われらは会社の繁栄に徹する
私たちは絶えず進化し成長し続けます。
- 一、われらは社員の幸福を願う
私たちはひとりひとりが生き活きと働く環境をつくります。

社訓

- 一、我れ誠実にそむくこと無かりしか
志を高く持ち、誠意をもって取り組みます。
- 一、我れ勤勉に欠くこと無かりしか
積極果敢に挑戦し、自分を高めます。
- 一、我れ信用をそこなうこと無かりしか
日々の努力を積み重ね、信用を築きます。

サステナビリティ

■サステナビリティコンセプト

Activate Your Life —これからも、ずっと、輝く未来。—

これからも、ずっと、輝く未来。

Activate Your Life

NICCAの象徴である「Activate」という言葉に、2つの想いをこめています。

ひとつめは、わたしたちが製造・販売している界面活性剤は

surface active agent といい、その技術で、人々の暮らし、社会を豊かにし、輝く未来を作っていきたい、という想い。



ふたつめは「活性化する」「輝かせる」という意味から、一人ひとりの暮らしや人生（Your Life）が生き生きと輝くものにしていける、activateな存在でありたい、という想い。

私たちはこの想いを実現し続けることで、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

■SDGsへの取り組み

日華化学グループはこれまでもISO14001（環境マネジメントシステム）を機軸とした「全社員参加型の環境活動」に取り組んでいましたが、未来にわたって持続可能な環境や社会を実現するため、2021年度よりSDGsの理念や方向性を経営戦略へ組み込むこととしました。

「2030年、グループ全体のCO₂実質排出量30%削減（2018年比）」を新たに経営目標に加え、持続可能な社会の実現へ貢献いたします。

2021年2月26日「中長期経営計画」

これからも日華化学グループはサービスや製品を通じて、SDGs達成へ貢献してまいります。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



持続可能な開発目標（SDGs）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。

■ マテリアリティ（重要課題）

日華化学グループは「環境」「暮らし」「社会」を持続可能な社会の実現に向けた重要課題とし、社会に貢献する企業として、これまで以上に積極的な取組みを推進してまいります。



環境：地球環境をもっときれいに

- 2030年、グループ全体のCO₂実質排出量を30%削減へ（2018年比）
- 地球環境に関する社会的課題を解決する事業に注力することで持続可能な社会と循環型経済の実現に貢献
- 「ケミカルグリーンコンセプト」を掲げ、化学物質の管理強化とお客様の環境負荷低減に寄与
- 環境に配慮した容器・包装材料の使用を積極的に推進
- 省資源、省エネルギー活動の実施



暮らし：人々の暮らしと生活を快適に

- 世界中の人々の健康と豊かな暮らしに貢献する事業への注力
- スポーツアパレルへの機能加工やクリーニング用薬剤など健康で清潔な暮らしに貢献する製品を提供
- 髪の健康と美しさを追及する画期的な化粧品の開発
- 抗菌・抗ウイルス製品で感染症予防に貢献
- デジタルデバイスや半導体など先端情報技術分野で必要とされる技術・材料領域での新規事業を創出・育成



社会：社会をより豊かに

- 多様な人材が集い、高いモチベーションで持てる力を最大限発揮できるように"大家族主義"を進化させる
- 「人材」の多様性と「働き方」の多様性を尊重するダイバーシティの深耕
- 社員の「働きがい」向上に繋がる様々な取組みを実施
- 地域社会との共生と住み良いまちづくりへの貢献
- 新興国からの留学生支援や身体障害者への奨学支援を積極的に実施
- 健康経営の推進

事業内容

日華化学は、化学品事業、化粧品事業の2つの事業領域を持つ化学メーカーです。

*化学品事業：界面化学を基盤にした事業

*化粧品事業：毛髪科学を基盤にした事業

私たちの技術は、身近な暮らしのいたるところに使われています。目に見えず、普段は気がつかないけれど、どこかでお役に立っている。界面から広がる日華化学のテクノロジーはこれからも快適な暮らしを支え続けます。

繊維化学品



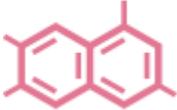
当社グループは、1941年の繊維加工用界面活性剤の開発から始まりました。創業以来、洗い工程である精練から仕上げまでの繊維加工の一連工程を網羅し、各工程や素材ごとに必要となる多種多様な薬剤を提供しています。工程全体を俯瞰できる強みを生かし、新たなアイデアやノウハウを生かした技術開発に取り組むことで、日本のみならず世界の繊維産業をリードします。

特殊化学品



金属や紙、プラスチック材など、モノづくりに欠かせない素材が製造・加工される際にも、界面活性剤は重要な役割を担います。洗浄剤や消泡剤をはじめとする工程薬剤、素材に付加価値を与える機能薬剤などの製造・提供で、モノづくりの現場を科学で支えています。

機能化学品



昨今、安全性・快適性への需要が拡大しています。当社グループは長年培った界面科学、樹脂技術で高機能・複合要素ニーズに貢献します。環境に配慮したウレタン樹脂、フッ素、シリコン、アクリルなど幅広い機能化学素材、合成、複合化技術及び高度な生産技術にて、お客様のモノ作りにスピーディにお応え致します。

クリーニング



繊維業界で培われた確かな経験と技術を活かし、1958年にクリーニング分野へ進出。現在では、ホームクリーニングとリネンサプライの両分野において、洗いから仕上げに至るまでの各工程で使用される製品を製造・販売しております。「環境に配慮した人と暮らしに優しい薬剤」をコンセプトに、皆様に安全で安心してお使いいただける製品を提供します。

メディカル



業務用クリーニングの薬剤を開発してきた知見を生かし、より高度な技術と品質が求められる医療・福祉現場の洗浄分野にも展開しています。「洗浄」をキーワードとして、各種医療器具専用の洗浄剤・消毒剤の協業開発や、衛生管理製品の開発も行っています。

先端材料



近年、高度化する市場要求に対応するために、ナノ構造材料を用いた新しい用途への応用開発が不可欠となっております。ナノテクノロジーに欠かせない界面科学の知見を活かし、炭素繊維複合材料用薬剤、ナノ粒子、電子材料等、さまざまな技術展開を進めています。

化粧品



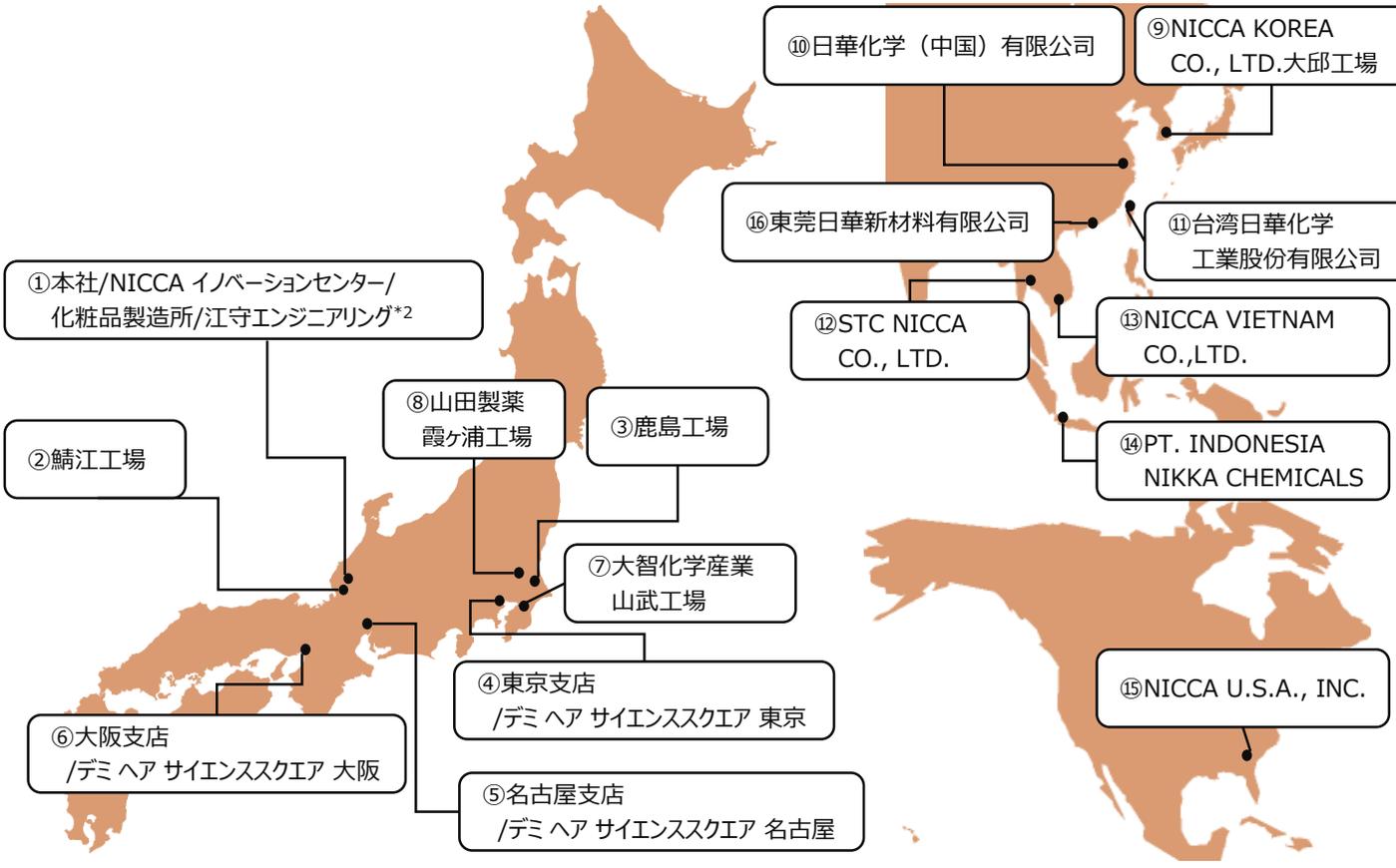
「洗う」「滑りをよくする」「染める」など、繊維部門で培った技術と同じく「繊維」である毛髪に応用。「お客様の髪の健康と美しさの追求」をテーマとするブランド「デミ コスメティクス」を立ち上げ、研究開発を行っています。市場の声に耳を傾けて開発されるヘアカラー・パーマ剤や、ヘアケア・スタイリング製品等を通じて、豊かで快適な生活に貢献しています。

ISOマネジメントシステム認証取得状況

当社グループではISOマネジメントシステム*1を改善の有効なツールとして活用し、主力工場から順次導入し活動しています。当社グループのISOマネジメントシステム認証の取得状況は以下のとおりです。ISOマネジメントシステムを改善のツールとして有効に活用し、更なるレベルアップを目指してまいります。

国内拠点

海外拠点



位置	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
ISO9001	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○
ISO14001	○	○	○	-	-	-	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-
ISO45001	○	○	○	○	○	○	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-
ISO22716	○	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-

*1 スイスのジュネーヴに本部を置く非営利法人「国際標準化機構」が定めたマネジメントシステムの国際規格です。「ISO----」などの番号によって整理され、数字によって管理する内容が異なります。

ISO9001は「品質」、ISO14001は「環境」、ISO45001は「安全衛生」、ISO22716は「化粧品の品質と安全性」

*2 本社のISO22716認証範囲は化粧品関連部署のみ

環境マネジメントシステム

当社は環境マネジメントシステムであるISO14001（略称EMS）を環境活動の基盤とし、環境方針を定めて環境活動に取り組むことで、ケミカルグリーンコンセプト「全員参加で自ら築くやさしい環境」を実践しています。様々な化学物質を取り扱う化学メーカーとしての社会的責任を果たすため、今後も継続的に環境活動を推進してまいります。

*「3R」「ゼロエミッション」の意味はP31以降の用語集をご参照ください。

■環境方針

理念

日華化学は、「サーフェスサイエンス」、「ライフサイエンス」を基盤とした企業活動を通じ、地球環境を守り、人々の暮らしを豊かにすることで、社会に貢献し信頼され選ばれる企業を目指します。

環境活動指針

私たちは、環境にやさしい製品の提供に努めます。

1. I. 環境有害物質を含まないグリーン製品を市場に提供します。
II. 環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入します。
III. 環境負荷の少ない生産工程を確立可能な製品を提供します。

私たちは、全員参加の活動を通じ、環境の改善に努めます。

2. IV. 資源の有効利用に努めます。
V. 省エネ及びCO₂削減を推進します。
VI. 3Rでゼロエミッションの浸透を図り、廃棄物削減を推進します。

私たちは、地域住民が安心できる環境と社員が安心できる作業環境を作ります。

3. VII. 地域と従業員が安心できる環境を作ります。
VIII. リスク管理体制を充実し、企業の社会的責任を推進します。
IX. グループの環境管理を向上し、環境関連情報をグループで共有します。

グループ一体となって取り組み、環境改善活動を進めます。

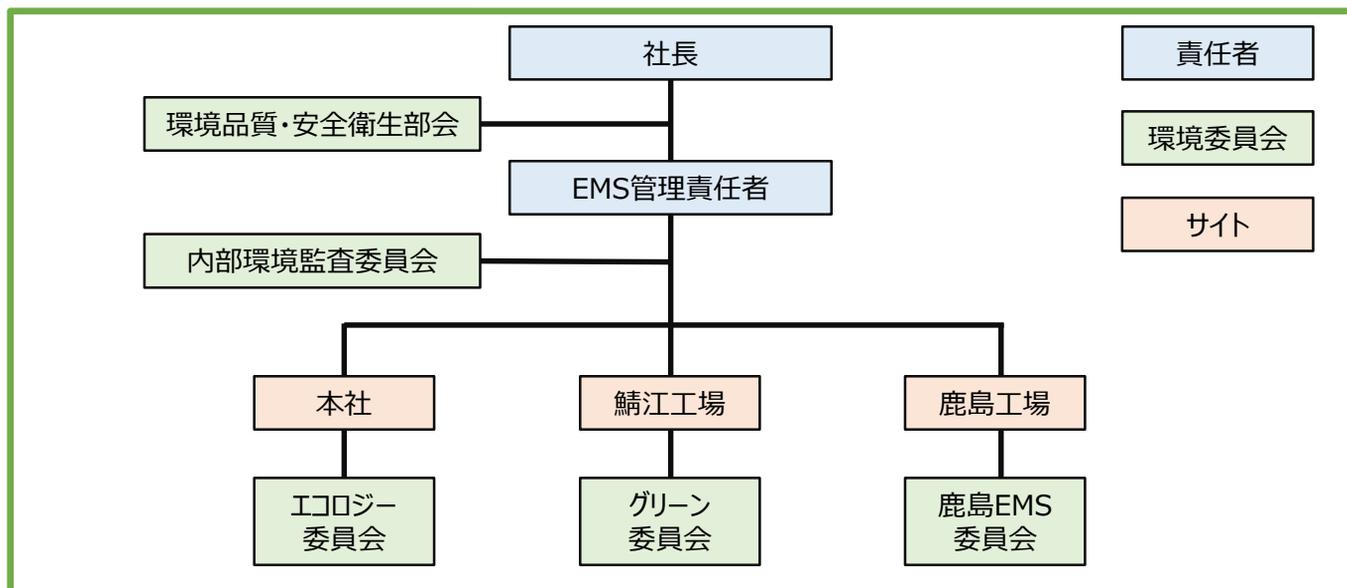
2019年1月1日 改訂
日華化学株式会社
代表取締役社長 江守 康昌

■ケミカルグリーンコンセプト

「全員参加で自ら築くやさしい環境」

- 地域のみなさまが住みやすい環境（地域満足）
- お客様が安心してお使い頂ける製品とサービス（顧客満足）
- みんなが気持ちよく働ける職場（社員満足）

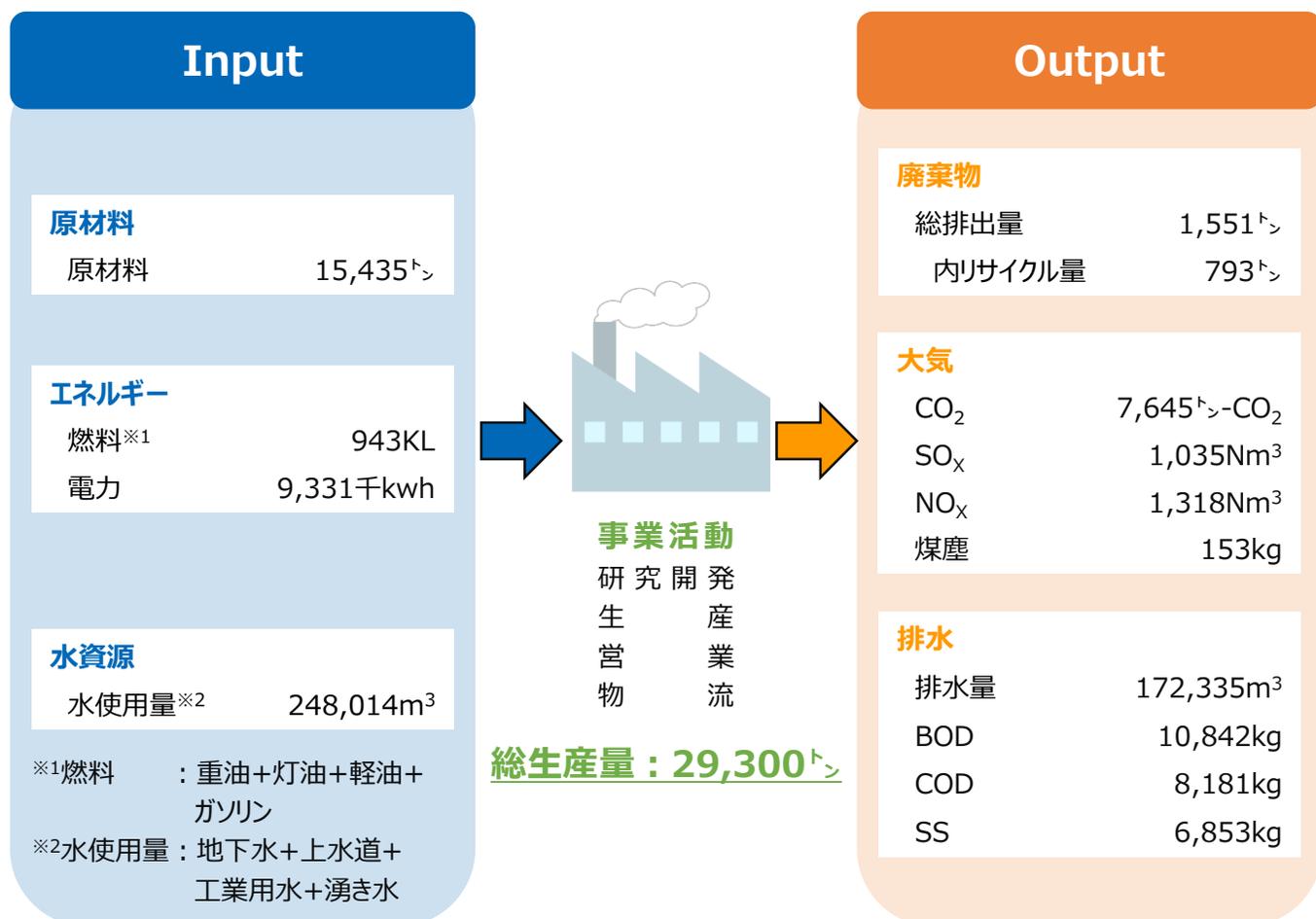
■ 環境マネジメント組織図



事業活動における環境への影響

当社は化学メーカーとして資源を消費し、製品を生産し、その工程で発生する不要物を適切な環境処理のもとに排出・移動しています。これら事業活動における環境物質フローを一貫した管理のもとで監視し、環境負荷の低減につなげています。直近の環境パフォーマンスはP13～P17に掲載していますのでご参照ください。

*「SOx」「NOx」「煤塵」「BOD」「COD」「SS」の意味はP31以降の用語集をご参照ください。



対象範囲：日華化学単体

対象期間：2020年1月～2020年12月

環境目標および実績

ISO14001認証を取得している各サイトは、環境目標を定め、実施計画を策定し、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2020年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。

*本社には化粧品製造所も含まれています。

【自己評価】 ○：目標達成 △：目標の一部分が未達 ×：大きく未達または進捗せず

サイト	2020年度 目標	2020年度 活動実績	自己評価
本社*	FSC認証紙を1ブランド以上に採用する (製品パッケージ・中外箱・カタログなどの紙もの)	実績：60製品にFSC認証紙採用	○
	有機性汚泥廃棄物量の削減 (対前年比 1% (100kg) 削減)	実績：2.6% (259kg) 削減	○
	化粧品カタログのペーパレス化 (2019年比 印刷部数20%削減)	実績：61%削減	○
	ゴミ分別教育の実施 (受講率80%以上)	実績：受講率89% (本社従業員数 約440名)	○
	化学物質の漏洩時対応訓練・教育の実施 (化学品部門の研究部署 受講率80%以上)	実績：受講率100% (化学品研究部門14部署)	○
鯖江工場	エネルギー削減 (2019年比 電気使用量158kwh/生産量t以下)	実績：165.kwh/生産量t	△
	排水量削減 (2017年比 6,000m ³ /月以下)	実績：4,729m ³ /月	○
	微粒子化製品の生産工程短縮 (現行処理時間 (24時間) から2/3以下に短縮)	実績：16時間に短縮	○
	製造工程時の製品漏洩発生0件	実績：2件 (工場内で処理したため工場外への漏洩は無い)	×
	製品サンプル廃棄方法の見直し (30%以上)	実績：32% (365製品/1150製品)	○
鹿島工場	エネルギー削減 (2019年比 電気使用量300kwh/生産量t以下)	実績：333.8kwh/生産量 t	△
	排水量削減 (2017年比 7,000m ³ /月以下)	実績：6,327m ³ /月	○
	毒劇物の盗難・紛失 0件	実績：0件 (毎月の出納管理にて差異無し)	○

報告対象範囲：日華化学単体

環境パフォーマンス

地球は現在のみならず未来に渡り、すべての生物にとって安全な状態で存在し続ける必要があります。そのため、地球環境の保護は全世界共通の課題となります。当社グループも2018年を基準に「2030年、グループ全体のCO₂実質排出量30%削減」を新たな経営目標として設定しました。

今後も地球環境保護の課題に挑み、地球環境と調和のとれた、持続的発展を目指します。

■ CO₂排出削減への取り組み

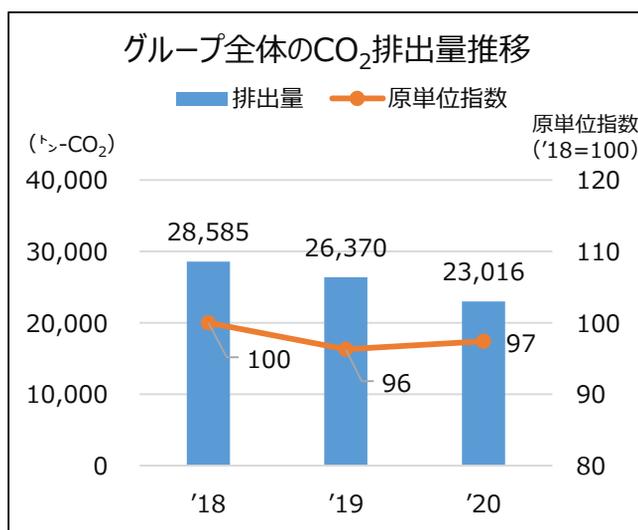
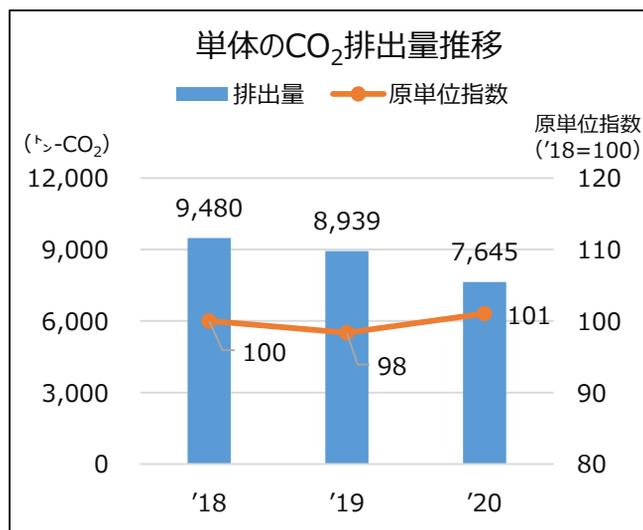
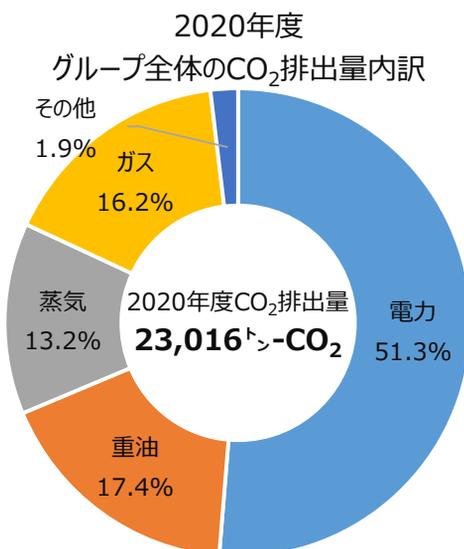
地球の表面は太陽のエネルギーで温められています。温められた熱の一部は大気中の二酸化炭素（温室効果ガス）に吸収されて、地球上に残ります。大気中の二酸化炭素の量が適度なら地球全体の気温はほどよく保たれますが、二酸化炭素が増えすぎると熱が余分に残り、地球全体の気温が上がってしまいます。これを地球温暖化といいます。

*二酸化炭素は化学式からCO₂と呼ばれています。

当社グループの事業活動では、電力をはじめとしたCO₂の発生要因となる様々なエネルギーを用いています（右図参照）。

こうした現状を踏まえ、グループ全体で最適な生産効率の確立、積極的な省エネ設備の導入、日常的な節電活動といった省エネ活動や改善活動を推進しています。

2020年度のCO₂排出量の減少要因は生産量の低下によるものです。



*削減活動の成果を把握するため、排出係数を固定しています。

● 再生可能エネルギーへの取り組み

当社は2021年8月より、福井県内事業所（本社・鯖江工場）において、北陸電力株式会社のグリーン特約（アクアグリーン）を導入し水力電源100%の電力利用に全量を切り替え、福井県内事業所からの電力由来のCO₂排出量ゼロを実現いたします。

今回導入する北陸電力グリーン特約「アクアグリーン」は、北陸地域の豊かな水資源を活かし、同社が高圧・特別高圧の利用者向けに提供する、水力電源100%でCO₂排出量ゼロの電気を利用する電気料金メニューであり、当社ではこれを利用することにより、国内グループ主要事業所の約半分となる年間約2,800トンのCO₂排出量がゼロとなります。

当社では引き続き国内外の主要事業所においても、CO₂排出量削減に向け再生可能エネルギーへの切り替えなどの見直しを進めてまいります。



■ 水資源の使用効率化への取り組み

水資源のうち、水の使用量は製品に含まれるもの、生産に用いる設備や機器が大きな割合を占めます。また、排水量は生産に用いる設備や機器の洗浄が大きな割合を占めます。排水中には化学物質が含まれやすいため、特に排水量の削減に力を入れ、環境負荷の低減に取り組んでいます。

排水量削減の主な取り組み事例として、生産に用いる設備や機器の洗浄方法見直しが挙げられます。工場間で情報共有しながら洗浄方法の見直しを行った結果、排水量を大きく削減することができました。

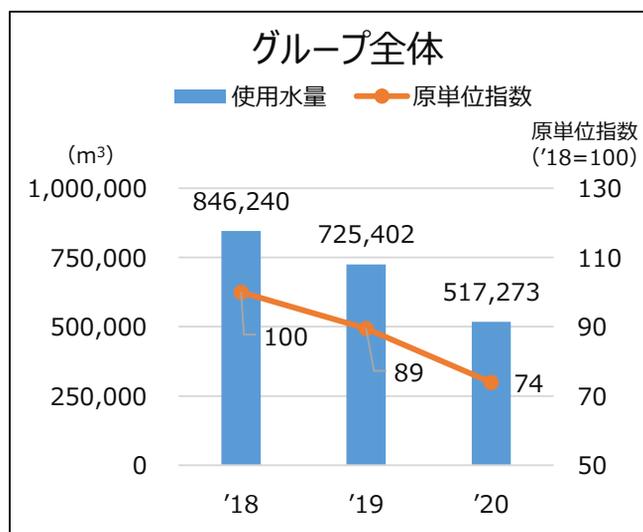
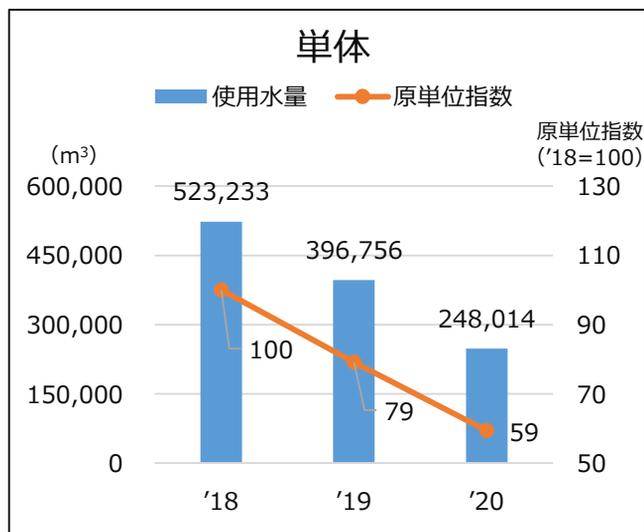
今後も水資源の使用効率化に努めてまいります。



水封ポンプに流量計や自動弁を取り付け、水量を一定にすることで節水に繋がっています（鹿島工場）

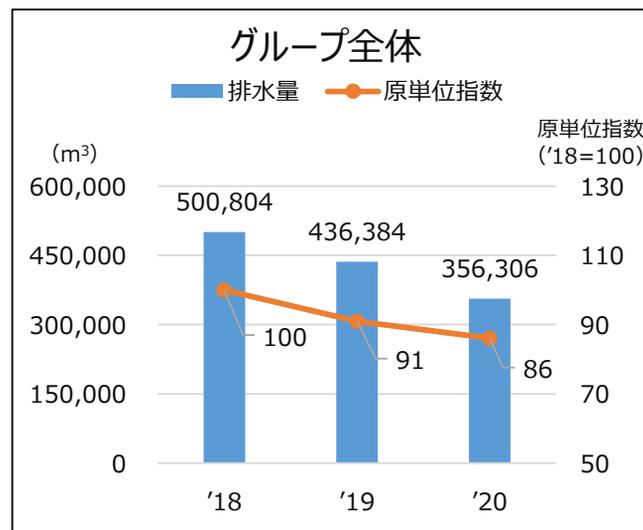
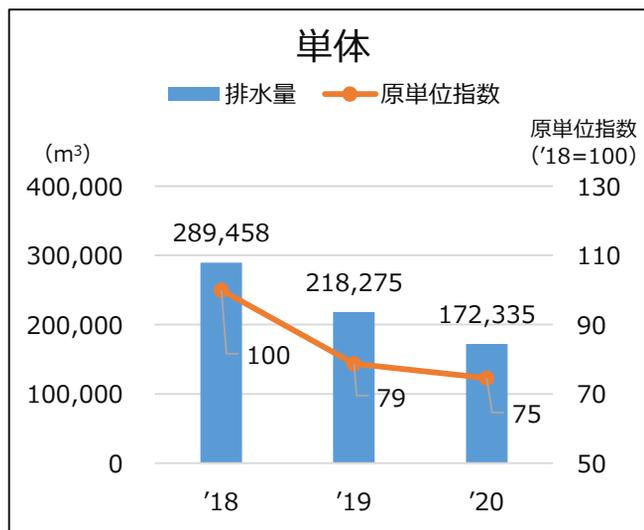
● 使用水量の推移

*原単位 = 項目/生産量とし、'18年度を原単位指数100としています。



● 排水量の推移

*原単位 = 項目/生産量とし、'18年度を原単位指数100としています。

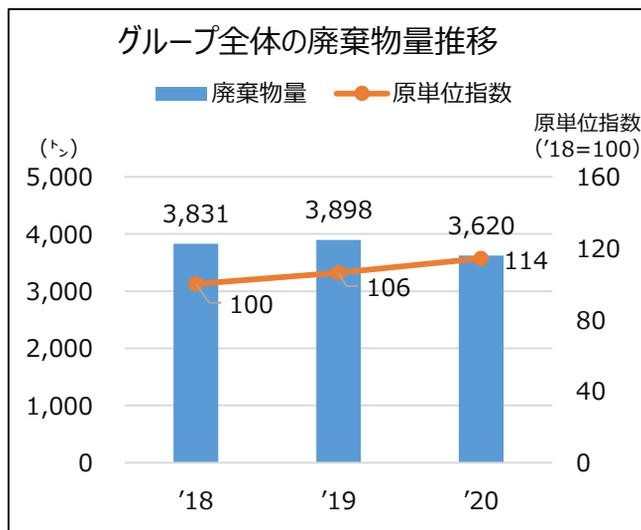
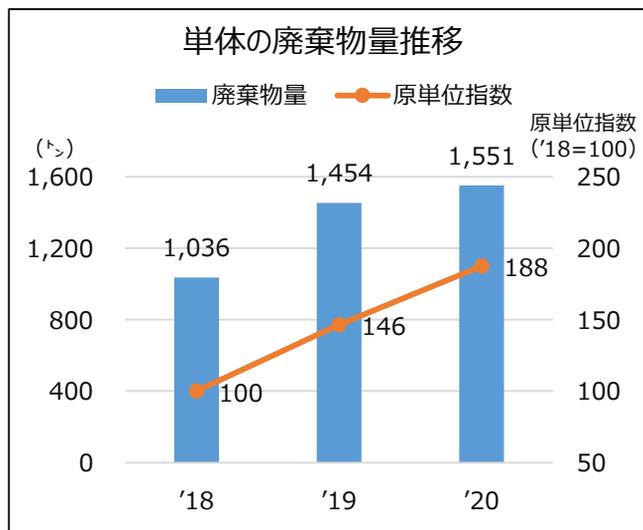


■ 廃棄物量削減の取り組み

廃棄物量は単体では、2018年度に本社の廃棄物受け入れ先である産業廃棄物処理会社の稼働が一時的に止まったことから、稼働が再開した2019年度にまとめて排出したことにより廃棄物量が増加しました。また、2019年度から2020年度にかけて、鹿島第2工場の本格稼働の影響により廃棄物量が増加しました。

グループ全体では、2018年度から2019年度にかけて韓国の子会社ニッカコリアの新工場建設工事（2019年10月竣工）に伴い、当該分の廃棄物量が増加しましたが、2020年度は恒常的な削減活動が奏功し、廃棄物量は減少しました。

廃棄物量は生産量や長期在庫品の廃棄、工場の構造変更（設備の新規設置や変更など）によって大きく変化しますが、従前より取り組んでいる削減活動を継続し、廃棄物量の削減に努めてまいります。

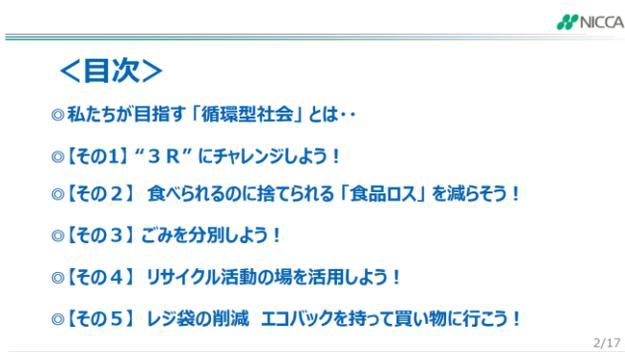


*原単位 = 項目/生産量トとし、'18年度を原単位指数100としています。

*本報告書（2020年度）より廃棄物量の集計方法を変更したため、2019年度報告書から数量が変化しています。

● 環境活動教育 - 循環型社会について -

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止策の一つとして、多くの社員が積極的にリモートワークを活用しました。集合形式での活動が難しい中、本社ではエコロジー委員会が中心となり、自宅からでも環境活動に参加できるようインターネットを利用したe-ラーニング教育を実施しました。



■設備のメンテナンスと環境への化学物質排出量モニタリング

当社は、大気中や水中をはじめとした環境への化学物質排出に細心の注意を払っています。環境への化学物質排出量は、製品に含まれる成分、生産量、廃棄物量、天候などにより大きく変化しますが、基準値を超えることがないように定期的なモニタリングを実施し、必要に応じて設備投資や設備のメンテナンスなどを行っています。

環境への化学物質排出量は定期的に外部の測定機関により測定しています（大気汚染物質：1回/年、水質汚染物質：1回/月）。また、本社は福井県知事から計量証明事業所の登録を受けており、毎月、各サイト（本社、鯖江工場、鹿島工場）から届くサンプル（排水など）の化学物質排出量を測定しています。

2020年度も各サイトともに環境への化学物質排出量が法令・条令で定められている基準値内であることを確認しました。

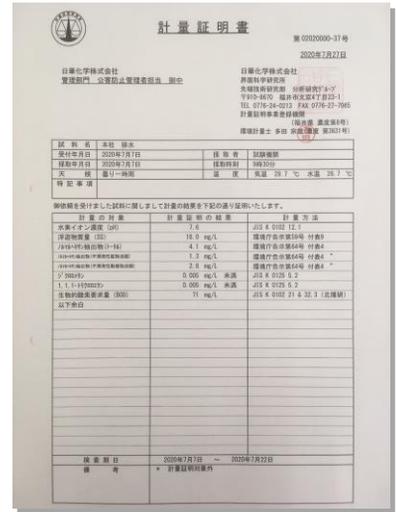
*計量証明：計量証明は、何か（あるものの物象の状態の量）を計った結果に関して、公に又は業務上他人にそれが真実である旨を数値を伴って表明することを言います。計量証明の事業を行う者は、計量法第107条の規定に基づき、事業場ごとにその所在地を管轄する都道府県知事の登録を受ける必要があります。



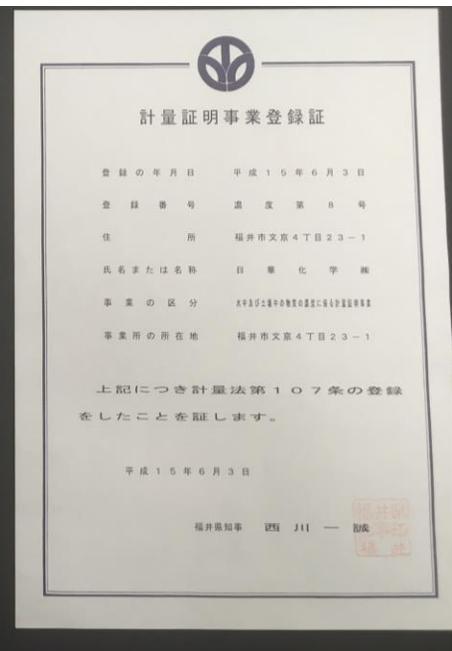
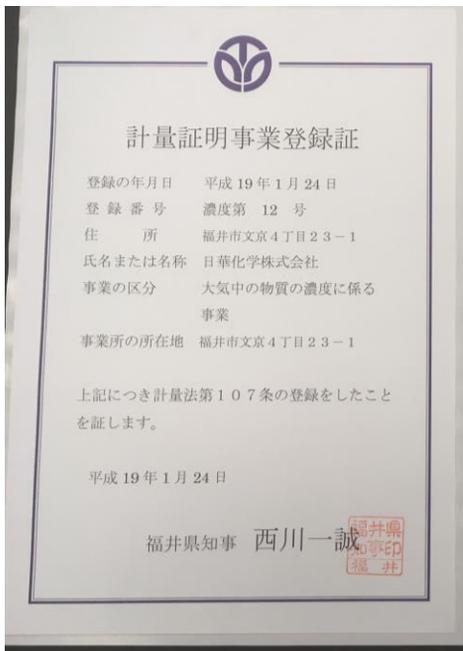
本社の省エネタイプボイラー（2016年更新）
燃料の使用量削減と熱効率の改善により、
大気汚染物質の排出量も減少しています



大気汚染物質の計量証明書
(外部の測定機関による証明)



水質汚染物質の計量証明書
(社内の分析グループによる証明)



「大気中」と「水中、土壌中」の計量証明事業登録書

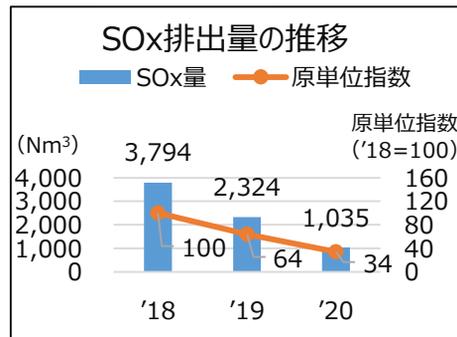
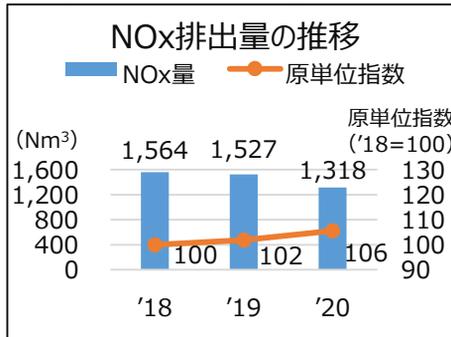
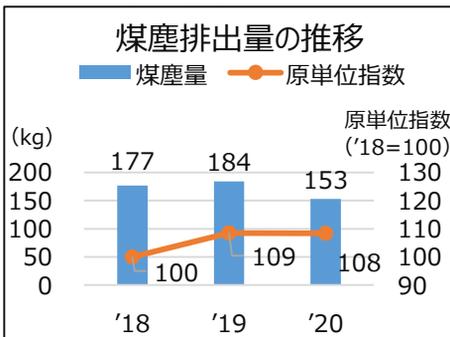
環境活動

また、定期的な測定だけでなく、より環境への負荷状況を把握するため、年間の化学物質排出量も測定しています。今後も「大気汚染防止法」「水質汚濁防止法」「下水道法」「化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）」をはじめとした様々な環境関連の法規制を順守するとともに、化学物質の管理手順を定めて適正に管理いたします。

*各化学物質の環境への排出量は、本社、鯖江工場、鹿島工場の合算値となります。

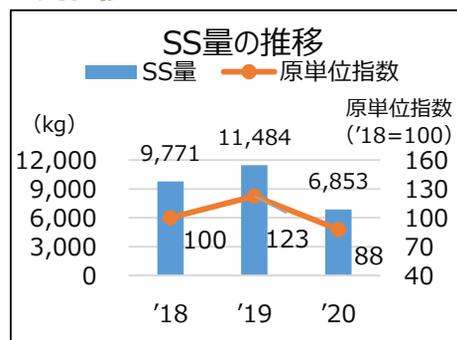
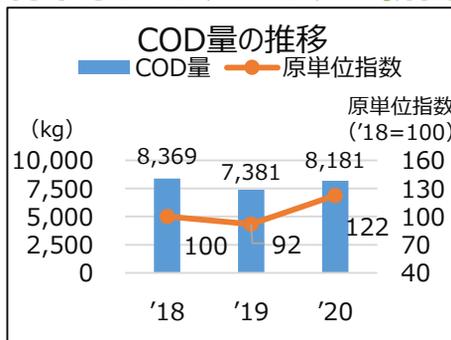
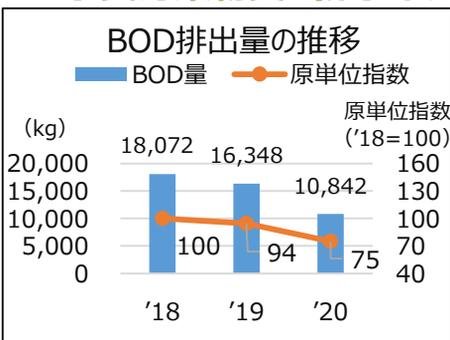
*「SOx」「NOx」「煤塵」「BOD」「COD」「SS」「PRTR」の意味はP31以降の用語集をご参照ください。

●大気汚染物質 -ボイラーの排気中に含まれる煤塵、NOx、SOx排出量の推移-



*大気汚染物質は外部の測定機関にて測定しています（1回/年）。測定結果を元に稼働日数と稼働時間から年間の排出量を算出しています。

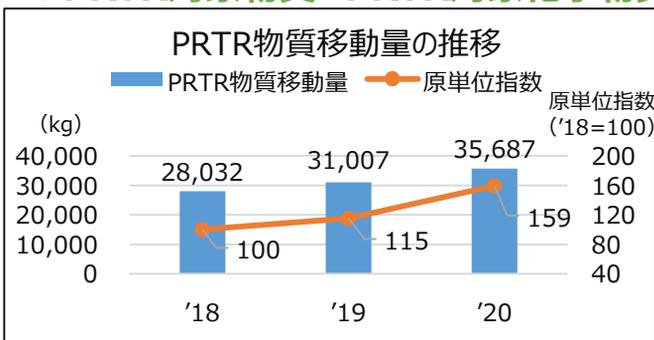
●水質汚染物質 -排水中に含まれるBOD、COD、SS排出量の推移-



*水質汚染物質は社内および外部の測定機関にて測定しています（1回/月）。

*水質汚染物質は生分解性（物質が微生物によって分解される性質）の高い製品の生産が増えると増加します。

●PRTR対象物質 -PRTR対象化学物質の環境への移動量の推移-



PRTR対象物質名 (原料)	大気	下水	廃棄物
フェノール	0kg	0.6kg	12,000kg
ジメチルホルムアミド	0kg	0.3kg	6,600kg
ポリ(オキシエチレン) = アルキルエーテル アルキル基の炭素数12-15まで、及びその混合物に限る	0kg	400kg	4,400kg
1,4-ジオキサン	0kg	0kg	3,500kg
トルエン	0kg	21kg	3,400kg

*移動量は、PRTR対象物質を含有する製品の生産量によって大きく変化します。

*PRTR対象物質の移動量は製品製造時から算出し、経済産業省へ報告しています（1回/年）。

*右側の表はPRTR対象物質移動量のうち、特に移動の合計量が大きな物質のみ掲載しています。

*大気：大気への排出は、原料の形状が個体や粉体、配管等を通じて直接設備に投入しているため0kgとしています。

*下水：下水への排出は、主に設備洗浄時に下水に流れる分の洗浄水です。

*廃棄物：製造過程で発生する廃液や容器に付着した原料の残りが廃棄物として排出されます。

環境会計

当社は環境保全に関わる取り組みを進めるにあたり、自らの環境保全に関する投資額・費用額を正確に把握し、効果を知ることが効率的な取り組みをはかるために必要と考え、「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、環境会計を作成しています。

*対象範囲：日華化学単体

*環境保全コストの費用額には減価償却費も含まれています。なお、人件費、原材料費は含めていません。

*研究開発コストには汎用性のある設備等も含まれていますが、環境対応製品の売上比率を用いて按分しています。

*研究開発コストの結果として、環境保全対策に伴う経済効果に環境対応製品の売上高を含めています。

■ 環境保全コスト

(単位：百万円)

分類	補足	投資額	費用額	
事業エリア内 コスト	公害防止	大気、水質、土壌、騒音、振動、悪臭、地盤沈下の防止	129	26
	地球環境保全	CO ₂ 排出削減、省エネルギー	9	14
	資源循環	廃棄物処理・処分、廃棄物削減	0	88
上・下流コスト	容器リサイクル対応	0	4	
管理活動コスト	ISO取得・維持、環境測定、緑地管理	0	63	
研究開発コスト	環境対応型製品の開発	20	11	
社会活動コスト	地域活動	0	0.4	
環境損傷コスト	発生した環境負荷、環境影響の除去など	0	0	
合計		158	206.4	



排ガス洗浄装置（左側）と粉体輸送装置（右側）
臭気や粉塵飛散を防ぎます（鯖江工場）

倉庫内照明のLED化（鹿島工場）

■ 環境保全効果

環境保全効果は「環境パフォーマンスP13～P17」をご参照ください。

■ 環境保全対策に伴う経済効果

(単位：百万円)

効果の内容	補足	金額
リサイクルにより得られる収入	紙類、廃溶剤、使用容器など（リサイクルに関わる運賃を含む）	0.6
（化学品）環境対応製品売上高	自主基準により分類した環境対応製品	2,265
（化粧品）環境対応製品売上高	FSC®認証紙使用製品、カーボンオフセット対象製品	220
合計		2,485.6

環境への配慮

当社は環境への負荷の少ない物品の選定および購入を推進しています。また、製品に用いる容器・包装は最終的に廃棄されることとなりますが、廃棄時に生じる環境への負荷も考慮しています。

■環境配慮パッケージの採用

2021年1月、当社の子会社であるイーラル株式会社は、美容室専売ブランド「EraL（イーラル）」がブランド誕生から10年を迎えたことを機に、エイジングケア（年齢に応じたお手入れ）とサステナブル（持続可能性）を融合した、サステナブルブランドへとリブランディングしました。

サステナブルの取組みとして、環境への負荷を減らすため、製品に用いる容器・包装に環境配慮パッケージを採用しました。一部商品は未対応ですが順次切替えていく予定です。



責任ある森林管理
のマーク

FSC®認証紙

今回のリブランド対象製品の個装箱、パンフレットは全てFSC®認証紙*1を使用しています。



バイオマスPET

リブランディング対象製品の容器に植物由来の素材が約25%配合されたバイオマスPET*2を採用しております。（一部の製品は未対応となります）



スマートecoパック

植物由来の素材を約16%使用した環境配慮の詰替パックを採用しました。これまでの詰替アルミパックと比較して、ゴミ廃棄量の削減*3も可能となります。また、フィルムが薄くなったことにより、しぼりやすい仕様になっています。

*1国際的なNGOであるFSC®（Forest Stewardship Council®:森林管理協議会）の責任ある森林管理や加工・流通の規格に則り認証された紙で、適切に管理されたFSC®認証林、再生資源およびその他の管理された供給源からの原材料から作られています。

*2PET樹脂の粗原料である石化由来のモノエチレングリコール（MEG）をサトウキビの搾りかす（廃糖蜜）を原料とした植物由来のMEG（バイオMEG）に置き換えたもので、これにより化石資源の利用低減および焼却処分時のCO₂排出量削減が可能となります。

*3イーラルアルミパックと比較して約41%削減されます。



環境配慮型製品の開発

環境問題についての世界で初めての大規模な政府間会議が、1972年6月にスウェーデンのストックホルムで開催されました（「国際連合人間環境会議（ストックホルム会議）」）。特に1992年、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された「環境と開発に関する国際連合会議」以降、環境問題への取り組みは、より世界的な動きとなっています。

こうした動きの中で、当社グループでは地球や人に優しい社会をつくりたいと努力し、ZDHC、GOTS、bluesign®、RSPOに積極的に参加することを通じて、環境に対応した製品をお客様に提供しています。

■ ZDHC

ZDHC（ZDHC Roadmap to Zero Programme）は、繊維製品・革製品・靴製品製造時の有害物質の使用を制限することを目的とし活動しており、世界的な大手アパレルブランドメーカーやサプライチェーンに関わる団体が加盟しています。また、2015年にこれら製品の製造時に意図的使用を制限する化学物質リスト（ZDHC MRSL）を公開しています。

当社グループは、2015年よりこの方針に応じ、これらの有害物質の使用を自主制限し、ZDHC MRSLの規定値内の自社製品リストをコーポレートウェブサイト上で公開してまいりました。さらにこの度、今までの取り組み実績や環境に配慮した企業姿勢、CSR活動がZDHCに認められ、2018年4月に加盟に至りました。ZDHCの詳細につきましては、当社コーポレートウェブサイトをご覧ください。

<https://nctexchem.com/jp/sustainability/zdhc/>

■ GOTS

GOTS（Global Organic Textile Standard）は、オーガニック繊維で作られた生地の世界有数の加工基準として認識されています。2006年の導入以降、GOTS はオーガニック繊維市場の成長と、繊維業界に対する加工基準（オーガニックにふさわしい環境負荷の少ない加工をしたかどうか、原料のオーガニック繊維が正しく使われたかどうか）への要求により成り立っています。

当社グループは、健康や環境への負担を最小限に抑えた繊維加工用薬剤をお客様に提供するため、製品ごとに随時GOTS認証取得を進めております。GOTSの詳細につきましては、当社コーポレートウェブサイトをご覧ください。

<https://nctexchem.com/jp/sustainability/gots/>

■ bluesign®

bluesign®は、スイスに本社を置く国際的環境認証機関 bluesign® technologies ag により運営されています。この認証は繊維業界において、環境・労働・消費者の観点における持続可能なサプライチェーンを経た製品に付与される世界で最も厳しい基準と言われており、その認証を受けることで、世界最高レベルの消費者の安全や労働者と環境への最小限の影響、資源の節約を証明することができます。

当社グループは2013年に繊維加工薬剤メーカーでは日本国内初のbluesign® system partnerになりました。bluesign®の詳細につきましては、当社コーポレートウェブサイトをご覧ください。

<https://nctexchem.com/jp/sustainability/bluesign/>

■ RSPO

RSPO（Roundtable on Sustainable Palm Oil、持続可能なパーム油のための円卓会議）は、世界的に信頼される認証基準の策定とステークホルダー（関係者）の参加を通じ、持続可能なパーム油の生産と利用を促進することを目的として2004年に設立されました。

当社グループは、RSPO認証を受けたパーム油由来の原料使用を推進しています。

当社グループは化学メーカーとして、EHD（Environment:環境、Health:健康、Digital:先端材料）のいずれか1項目以上に合致した、サステナブルな研究開発活動を進めています。EHD事業の売上高比率も2019年の約25%から2020年度は約37%に向上し、2025年の目標である50%に向けて着実に推移しています。

EHDに対応した製品の詳細は、コーポレートウェブサイト「事業・製品情報」、「事業報告書」をご参照ください。

事業・製品情報：<https://www.nicca.co.jp/productinfo/>

事業報告書：<https://www.nicca.co.jp/ir/report.html>

■ 開発テーマ【環境】

● 水系ウレタン樹脂：「エバファノール」シリーズ

ウレタン樹脂は、クッション材や断熱材、塗料、接着剤、人工皮革など、さまざまなかたちを変えて使われている素材で、原料の組み合わせによって柔らかくしたり硬くしたりと多彩な機能を持たせることができます。そのウレタン樹脂は従来より有機溶剤（トルエン、ジメチルホルムアミドなど）を使用した溶剤系が主流ですが、加工工程における人体や環境に対する安全性に懸念がもたれています。

当社のコア技術を駆使して開発した水系ウレタン樹脂「エバファノール」シリーズは、高機能性（相手を選ばない「密着性」、水系ウレタン樹脂トップクラスの「耐久性」、折り曲げても大丈夫な「強靱性」）を実現しつつ、バイオ系原料を用いることで、大気や水質などの環境面の他、人体への安全性にも貢献しています。



水系ウレタン樹脂は、カーシートやシューズなど身近なところで使われています。

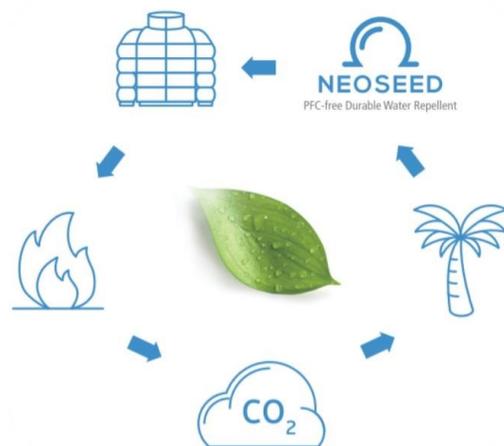
● RSPO対応 フッ素フリー系撥水剤：ネオシード RS-7081/ネオシード RS-7201

フッ素は分解されることがほとんどないことから、永遠の化学物質（フォーエバー・ケミカル）とも呼ばれ、今も環境中に残っていることが問題となっています。

「ネオシード」シリーズはフッ素フリー（フッ素化合物を使用していない）の耐久撥水剤です。環境にやさしい製品にもかかわらず、従来のフッ素系撥水剤に匹敵する撥水性を備えています。シリーズの中でも「ネオシード RS-7081」と「ネオシード RS-7201」はRSPO認証成分であるパーム油を主原料として用いています。

世界的にパーム油の使用量が増加し生産が拡大する一方、熱帯雨林を伐採してアブラヤシ農園を拡大する、不適切な農園経営などといった環境・社会問題が生じています。アブラヤシ農園から始まり、最終製品ができるまでの各工程が管理された原料（RSPO認証製品）を用いることは生産農家の支援となり、パーム油の持続可能な生産、また、森林保全にも繋がります。

今後も環境に配慮した原材料の使用を積極的に推進し、環境や社会に貢献してまいります。

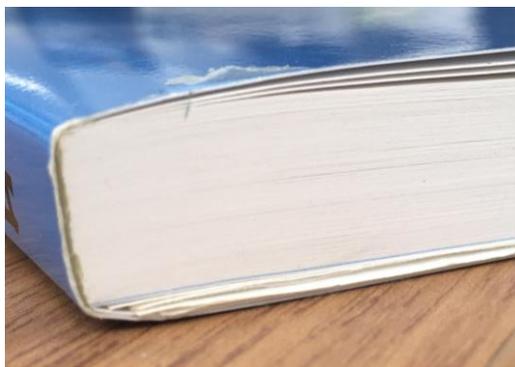


RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）で作られる製品のライフサイクル

●ピッチコントロール剤：ニッカソルト PC-1

ピッチとは古紙を使って紙を製造する際に発生するチリや汚れのことで、例えば郵送伝票の接着剤や糊に含まれる樹脂成分が挙げられます。ピッチは、紙の品質低下、断紙の発生などによる生産性・作業性の低下（紙を作るとき）、印刷など加工工程でのトラブルや品質低下（紙を加工するとき）といった様々なトラブルを引き起こす原因となります。古紙再生工場ではピッチ問題が頻発しており、製紙業界では長年にわたってピッチコントロール剤の開発が要望されていました。

ピッチコントロール剤「ニッカソルト PC-1」は独自技術を駆使し、ピッチの化学分解を促進することによるピッチ付着トラブルの低減に成功しました。再生紙の品質が向上し、低品質の古紙でも再生可能となり、古紙のリサイクル率が向上します。これからも古紙リサイクル率の向上、ひいては森林資源保全のため、地球環境への負荷軽減に貢献いたします。



雑誌の背表紙に使われている糊（左側）や箱などに貼られているシール類（中央）には樹脂成分が含まれています。この樹脂成分（右側）がパルプ内に含まれチリや汚れが生じることで、再生紙の品質低下となります。

●頭皮と髪のエイジングケアブランド：EraL（イーラル）

「EraL」は2010年に植物のチカラと科学のチカラを融合させ、日本人に合わせた頭皮と髪のエイジングケア（年齢に応じたお手入れ）に注力したブランドとして誕生し、「髪も、世界も、美しく。」をブランドコンセプトとしてお客様と共に健やかで美しい社会の実現に取り組んでまいりました。そうした活動が評価され、日本初のSDGsの理念を取り入れたコスメティックアワードである「サステナブルコスメアワード2020*」にてエントリーした4製品全てがノミネート賞を受賞いたしました。

さらに、2021年1月に行ったEraLの全面リブランディングでは環境配慮パッケージ（FSC®認証紙、バイオマスPET、スマートecoパック）を採用するなど、環境負荷低減に向けた新たな取り組みも始めました。

今後もSDGsを始めとした様々な取り組みを強化し、環境や社会に貢献してまいります。



*サステナブルコスメアワードとは、「人にも地球にもやさしいコスメ」を表彰する制度です。

SDGs(持続可能な開発目標)の理念を選考基準に採用しています。



<受賞製品> 写真左から、
イーラル スカルプシャンプー バランス【医薬部外品】
イーラル ハニーパック スカルプ【医薬部外品】
イーラル リペアトリートメント スムース
イーラル スカルプエッセンス

■ 開発テーマ【健康・衛生】

- 抗菌・ウイルス加工剤 : 「ニッカノン」シリーズ
- 抗菌・防臭・抗ウイルス加工剤 : 「オーリス」シリーズ
- 保湿成分配合手指消毒剤 : 「エコルセ」シリーズ

近年、健康・衛生に関わる製品の社会的ニーズが高まる中で、当社グループは衛生関連製品の開発および事業化を迅速に推進するとともに、次世代医療や感染症予防を注力領域と決めました。2020年8月には「生活・環境衛生事業開発室」を新設、「生活・環境衛生事業開発プロジェクト」として活動を開始しました。「生活・環境衛生事業開発プロジェクト」では3つの分野に注力し、様々な用途・市場でご使用いただけるようラインナップを揃えました。

今後も世界中の人々の健康と豊かな暮らしに貢献できるように、本物の技術とサービスを創出してまいります。

<3つの分野>

- ① 繊維製品、クリーニング物品に対し、抗菌や抗ウイルスなどの効果を付与する「付ける」
- ② 雑菌やウイルスに汚染された手指や環境表面（手で触れる部分）へ使用し、消毒や除菌効果を付与する「拭く」
- ③ 物体表面への塗布や樹脂製品への練りこみを行う事で、持続性のある除菌効果を付与する「塗る」

付ける

繊維製品用 抗菌・抗ウイルス剤
ニッカノン RB / RB-40



クリーニング・リネンサプライ用 抗菌剤・抗ウイルス剤
オーリス WV-32 / DV-16 / NS-2030



拭く

手指消毒剤
エコルセ NA-1



薬用ハンドソープ
エコルセ NB-22



塗る

建築材料・車輛用 抗菌・抗ウイルスコート
ニッカノン RB / RB-40 / RB-1000



化粧板



合皮シート



壁紙



プラスチック



シート



塗料

労働安全衛生マネジメントシステム

当社グループは「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」を経営の大きな柱の一つとして掲げ、労働安全衛生方針を定め、計画的に教育・訓練を実施することで、職場の安全衛生を確保しています。

日華化学単体としては、2019年12月にISO45001（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を取得しました。国内・海外の関係会社においては、常にお互いが情報を共有し、災害の再発および未然防止に努めています。

■労働安全衛生方針

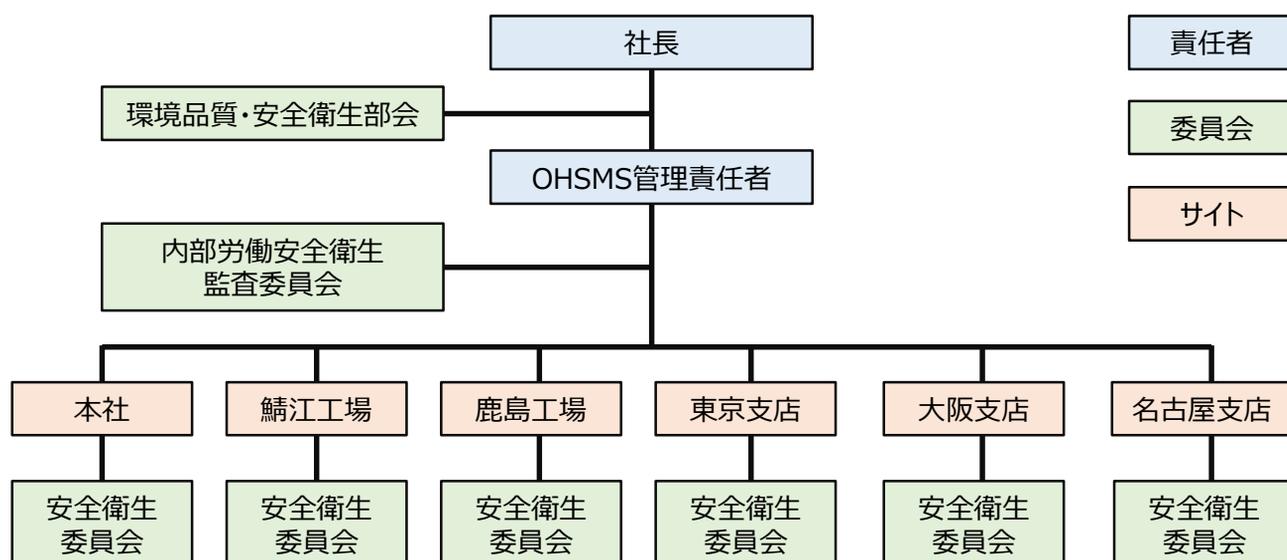
当社は化学メーカーとして、創業以来安全を最優先に社業に取り組んでまいりました。

これからも安全や健康を脅かすことの無い作業環境を確保し、従業員及び社会に「安心」を提供することに努め、継続的に改善する管理体制を築いてまいります。

1. 全従業員参加の下、労働安全衛生に係わる法令を順守し、組織的に安全衛生活動を実施します。
2. 会社の安全衛生を継続的に改善するため、計画的に労働安全衛生活動を実施、評価、見直しを行います。
3. ヒューマンエラーを想定した上で、あらゆる危険有害要因を特定、排除し、快適な職場作りと労働災害ゼロを目指します。
4. 全従業員に健康の維持管理と増進の機会を積極的に提供します。

2019年4月1日
日華化学株式会社
代表取締役社長 江守 康昌

■労働安全衛生マネジメントシステム組織図



労働安全衛生目標および実績

ISO45001認証を取得している各サイトは、全社共通の目標である「労働災害ゼロ」を達成するため、年間を通して様々な取り組みを実施しています。2020年度に掲げた目標と活動の達成状況は下記の通りです。

【自己評価】 ○：目標達成 △：目標の一部分が未達 ×：大きく未達または進捗せず

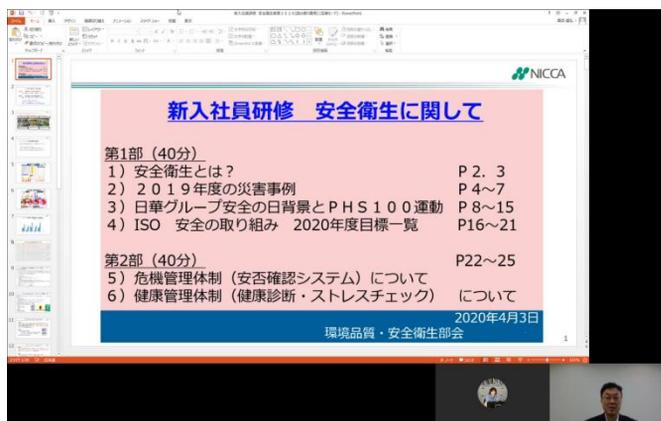
実施項目	サイト	実績	自己評価
PHS順守100%実施運動 P：適正保護具の着用 (Protector) H：階段の手摺り持ち (Handrail) S：安全通路の歩行 (Safety path) 「ご安全に！」挨拶の推進	本社	PHS順守率は60%～80%と低い水準	×
	鯖江工場	PHS順守率は95%超と高い水準であるものの未達	△
	鹿島工場	PHS順守率は90%超と高い水準であるものの未達	△
	東京支店	S：安全通路の確保に注力 定期的に安全通路の整理整頓を実施するものの、在宅勤務ヘシフトしたため滞る	△
	大阪支店		
	名古屋支店		
リスクアセスメントシートの最新版管理および再発防止・未然防止対策の実行	本社	毎月の安全衛生委員会にて進捗状況を確認するものの、一部の部署で最新版管理が滞る	△
	鯖江工場	リスクレベルⅡ以上を27.9%改善 (約540件の職場内リスクに対して150件改善)	○
	鹿島工場	帳票の運用方法に一部誤りがあり、全体の進捗が滞る	△
	東京支店	在宅勤務や時差出勤ヘシフトし、支店内での勤務者数が大きく減少したため実施が滞る	×
	大阪支店		
	名古屋支店		
安全衛生教育・訓練の実施	本社	在宅勤務や時差出勤に伴い目標に対する実施率は70%程度に留まる	△
	鯖江工場	外部講師を招いて行う教育・訓練は中止となるものの、社内で行う教育・訓練は全て実施	△
	鹿島工場	予定した全ての教育・訓練の実施を達成	○
	東京支店	在宅勤務や時差出勤ヘシフトし、支店内での勤務者数が大きく減少し未達	×
	大阪支店		
	名古屋支店		
伝染病、感染症の予防対策強化	本社	消毒剤の準備・供給体制の整備、消毒ルールの設定、沫感染防止用衝立の設置などを実施し達成	○
	鯖江工場		
	鹿島工場		
	東京支店		
	大阪支店		
	名古屋支店		

労働安全衛生活動への取り組み

当社グループは「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」を経営の大きな柱の一つとして掲げ、安全・安心な職場を作るため、全従業員が積極的な労働安全衛生活動を実施しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、統一行動による教育・訓練を行うことは出来ませんでした。教育資料の作成に注力する、オンライン教材を用いるなどといった工夫を凝らした労働安全衛生活動に取り組みました。

2021年度も感染拡大防止策を徹底しつつ、労働安全衛生活動を実施しています。



オンラインツール「Teams」を用いた新入社員への安全衛生教育

また、地震などを含めた防災訓練や化学物質の漏洩等に対応した訓練を、全サイト（本社、鯖江工場、鹿島工場）でそれぞれ年1回以上行っています。あつてはならない職場火災への対応として各サイトごとに自衛消防隊を設置しており、日頃から活発に演習を行っています。その成果は、毎年開催される地区の消防競技大会においていかに発揮しており、優秀な成績を収めています（2020年、2021年は新型コロナウイルスの影響により中止）。

さらに、化学メーカーとして事業活動を行う上で法的に必要な資格者や、環境管理に必要な資格者については、環境品質・安全衛生部会にて教育計画を立て、充足するよう努めています。



自衛消防隊訓練の様子（写真左側：鹿島工場 写真右側：本社）

こうした活動の成果として、2016年度より日本国内の「休業4日以上労働災害発生件数（労働者死傷病報告による）」を「0」に抑えることができています。

	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年度
発生件数（件）	1	0	0	0	0	0
休業日数（日）	20	0	0	0	0	0

報告範囲：日華化学単体

しかしながら、職場の安全衛生確保に終わりはありません。

より確実に職場の労働災害を抑えるために、まず、日華化学単体（本社、各工場、各支店）にてISO45001を活用した安全衛生文化を醸成し、日華化学グループ全体に展開して「日華化学グループ全体の労働災害ゼロ」が達成できるよう努めてまいります。

地域社会とのコミュニケーション

当社グループは地域社会との繋がりを大切に、積極的にボランティア活動や地域イベントへ参加しています。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により活動は縮小しましたが、感染防止対策を徹底しながらも積極的に参加しています。

■クリーンアップふくい大作戦への参加

福井県は福井の豊かで美しい自然環境を守るため、1992年から行政・県民が一体となって県下一斉に環境美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しており、当社もこうした取り組みに賛同し、毎月事業所周辺の清掃活動を実施しています。

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、福井県全体での統一行動は実施されませんでした。感染症防止対策を講じた上で環境美化活動を実施しました。

今後もグリーンエリアを拡充し、美しい街づくりを推進するために、環境美化活動を推進してまいります。



■近隣小学校で手洗い教室を開催

新型コロナウイルス感染拡大防止として手洗い・消毒の徹底は基本ですが、洗い残しのない正しい手洗い方法はあまり知られていません。特に小さい子どもはさまざまなものに触るため、感染予防のためにも正しい手洗いの習慣化が重要です。

子どもの正しい手洗いの習慣化をサポートするため、福井県福井市の春山小学校で手洗い教室を開催しました。手洗い教室では、洗い残しが目で見て分かるUVライトや手洗いチェッカーを使って「手洗いニガテポイント」を見つけてもらい、今後の手洗いに役立ててもらうようお願いしました。

今後も地域の皆さんとのつながりを大切に、活動してまいります。



■スーパーサイエンスハイスクールへの支援

スーパーサイエンスハイスクール（SSH）とは文部科学省が科学技術や理科・数学教育を重点的に行う高校を指定する制度のことで、将来の国際的な科学技術関係人材を育成することを目的としています。当社もSSHの取り組みに賛同し、福井県内の高校生に対して界面活性剤についての講義や会社見学等を実施しています。

2020年度は福井県立高志高等学校の生徒さんが来社し、会社見学だけでなく、シャンプー工房の実験を体験してもらいました。

今回の訪問をきっかけに、国際的に活躍される科学技術者が増えることを期待しています。



■留学生への支援

当社の会長であった故江守幹男が、アジア諸国から福井県内の国公立大学に進学または在学する留学生に学資の補助として奨学金を支給することを目的として、1994年に公益財団法人江守アジア留学生育英会を設立しました。

2020年度で第26期を数え、設立以来、延べ293名の奨学生の方がこの制度を活用しています。2020年度は28名の応募者があり、福井大学8名、福井県立大学3名 計11名（出身国別では、中国5名、ベトナム2名、インドネシア1名、カンボジア1名、トルクメニスタン1名、ウズベキスタン1名）が奨学生として選ばれました。



QCサークル活動、改善提案制度

当社グループは改善活動の一環として、1968年からQCサークル活動（同じ職場内で品質管理活動を自発的に小グループで行う活動）に取り組んでいます。2001年からは海外拠点の工場にも展開し、2年に1度、国内・海外拠点の中から選ばれたQCサークルが本社に集まり「国際発表会」を実施しています。日本語、英語、中国語とさまざまな言語での発表でありながら、改善の成果に対して活発に意見を述べ合いました。



2021年度に行った国際発表会では、オンラインツール「Teams」を用いて改善活動の成果を報告しました。

また、1985年からは職場の活性化や業務の改善を推進することを目的とした改善提案制度を導入し、改善点として挙げられた提案を積極的に経営活動の中に取り入れています。

2019年度からは経営層を巻き込んだ改善活動を推進した結果、生産部門以外からも改善提案が集まるようになり、より活発な活動となりました（2021年度1,031件（日華化学単体））。

改善提案はテーマによって「品質」「環境」「安全衛生」「その他」に分類しています。「環境」をテーマとした改善の実施例は下記のとおりです。

「環境」をテーマとした改善の実施例

- つる性植物による緑のカーテン
- サーキュレーターを活用した電力削減
- 装置の使用計画見える化による節電対策
- 手洗い場の洗浄水排水対策
- 防音シートによる防音対策

改善提案件数の推移



つる性植物による緑のカーテン（鯖江工場）

今後もQCサークル活動と改善提案活動を通じて職場の活性化を図り、業務のムリ・ムラ・ムダを削減し、環境・安全衛生・製品品質の向上に努めてまいります。

内部監査

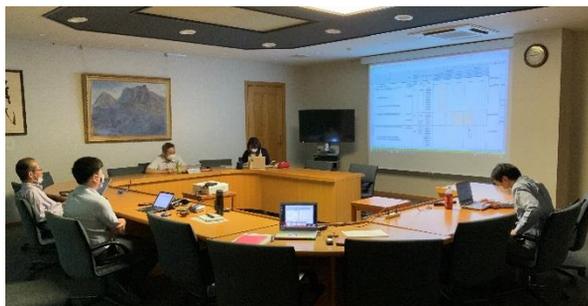
当社グループの環境・安全衛生・品質・コンプライアンスに関係する内部監査は大きく分類すると2種類あります。それぞれの内部監査は毎年必ず実施し、業務上の不正防止や業務効率化の状況を確認し改善を推進することで、当社グループ経営理念の実現に役立っています。

種類	内部監査の中で確認する内容
ISO※に基づく監査	ISOに基づく監査は、各国のISO認証範囲ごとに実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ● ISO規格に適合しているか ● ISOマネジメントシステムが有効に働いており効果が出ているか ● ISOマネジメントシステムに問題が生じていないか
生産部門と品質保証部門によるグローバル監査	当社グループ統一で決められた安全・品質・環境・コンプライアンスの順守状況・改善状況と、その仕組みを守るための責任者と管理者を育成するために実施しています。 <ul style="list-style-type: none"> ● 各国の法規に対応しているか、安全・環境・品質を維持向上させる仕組みが出来ているか ● 品質保証と品質管理がグローバルで統一されているか ● 人身事故、環境事故などに対して再発しない仕組みが構築されているか ● 全拠点統一決定したアクションアイテムをどのように展開しているか ● 万が一、火災・地震などが起きた際に、誰一人として死傷しないような防災訓練を実施しているか

※ISO : ISO9001、ISO14001、ISO45001、ISO22716

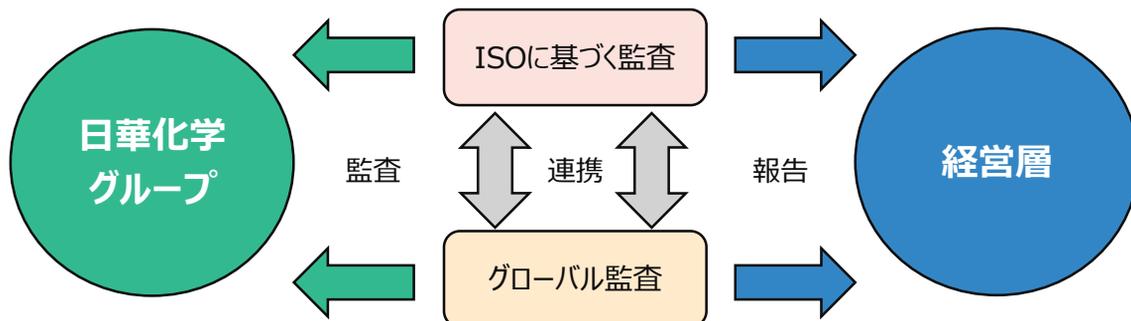
また、お互いに内部監査に関する情報を共有しあい、1つの事柄に対しても違った視点で見直すことで、新たな気付きへと繋がり、更なる改善の推進となります。

内部監査の結果は経営層に報告し、改善が必要な事項に関しては速やかに対応しています。



台湾と日本をオンラインツール「Teams」で繋いで実施したグローバル監査の様子

内部監査の全体像



なお、当社グループは上記内部監査の他に、経営の迅速性・透明性・公平性の向上を目的としたコーポレートガバナンス体制を構築し、ガバナンスの強化を図っています。コーポレートガバナンス体制の詳細につきましては、当社コーポレートウェブサイトをご覧ください。

コーポレートガバナンス : <https://www.nicca.co.jp/ir/governance.html>

本報告書内にて用いられる用語の解説です（昇順にて記載）。

3R	リデュース（Reduce）、リユース（Reuse）、リサイクル（Recycle）の3つのRの総称。1つめのR（リデュース）とは、物を大切に使い、ごみを減らすこと、2つめのR（リユース）とは、使える物は繰り返し使うこと、3つめのR（リサイクル）とは、ごみを資源として再び利用することです。
BOD （BIOCHEMICAL OXYGEN DEMAND）	生物学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、水中の微生物が有機物を分解する際に消費する酸素量のことです。汚水処理では、最も重要な指標のひとつで、環境基準では河川の汚濁指標として採用されています。BOD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
COD （CHEMICAL OXYGEN DEMAND）	化学的酸素要求量を意味する水の汚染を表す指標で、環境基準では海域及び湖沼の閉鎖性水域の汚濁指標として採用されています。CODでは微生物の代わりに化学物質を使って水の中の酸素量を調べます。COD値が大きいほど水中の酸素欠乏度合いが高くなることを意味しており、水質の汚濁が進み、悪臭が発生するなど、生物が棲みにくい環境になります。
NO _x （窒素酸化物）	一酸化窒素、二酸化窒素、亜酸化窒素、三酸化二窒素、四酸化二窒素、五酸化二窒素などの総称。 燃料を高温で燃やすことで、燃料中や空気中の窒素と酸素が結びついて発生します。工場や火力発電所、自動車、家庭など発生源は多様です。NO _x は光化学スモッグや酸性雨、喘息の原因となり、NO _x 排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
PRTR （POLLUTANT RELEASE & TRANSFER REGISTER）	人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計にもとづき、排出量・移動量を集計・公表する制度（PRTR制度）が2001年4月に施行されました。2002年4月より指定化学物質の排出量・移動量の届出が義務づけられ、経済産業省より公表されています。
SO _x （硫黄酸化物）	一酸化硫黄、二酸化硫黄、三酸化硫黄などの総称で、石油や石炭などの化石燃料が燃える際に発生します。日本では高度経済成長の時代に、工場からの煙などに含まれる硫黄酸化物による大気汚染が進行し、大きな問題になりました。SO _x は酸性雨や喘息の原因となり（代表的な例として、四日市喘息が挙げられます）、SO _x 排出量が大きいほど大気を汚染しているということになります。
SS （SUSPENDED SOLIDS）	浮遊物質または懸濁物質を意味する水中に浮遊する不溶性物質の総称で、水質測定項目の1つです。SSは水質汚染の原因となり、魚類や水生植物に障害を与えます。工場排水、家庭排水などが河川に流出することによってSS量が大きくなり、水の透明度や水質の悪化を招きます。また、SSそのものが魚類のえらを塞ぎ、へい死（動物が突然死ぬこと）の原因となります。
VOC （揮発性有機化合物）	塗料、印刷インキ、接着剤、洗浄剤、ガソリン、シンナーなどに含まれるトルエン、キシレン、酢酸エチルなどが代表的な有機化合物であり、揮発性を有し、大気中で気体状となります。光化学スモッグを引き起こす原因物質の1つとされています。

本報告書内にて用いられる用語の解説です（昇順にて記載）。

カーボンオフセット	日常生活や経済活動において避けることができないCO ₂ 等の温室効果ガス（カーボン）の排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資することにより、排出される温室効果ガスを埋め合わせる（オフセット）という考え方です。イギリスを始めとした欧州、米国、豪州等での取り組みが活発であり、日本でも民間での取組が拡がりつつあります。
グリーン購入	物品の購入に伴う環境への影響を考え、環境負荷ができるだけ小さい物品を購入すること。
シックハウス症候群 （シックカー症候群）	住宅の高気密、高断熱化が進み、人工建材や日用品から揮発する化学物質が室内に充満し、それらを取り込んだ居住者に健康被害（眼、鼻、喉、皮膚の刺激症状、頭痛、倦怠感など）が生じること。シックハウス症候群の原因は化学物質だけではなく、ダニや真菌などの生物学的要因、湿度、心理社会要因、個人の感受性など、様々な要因が複雑に関係していると考えられています。新品の自動車でも同様の症状が報告されており、こちらはシックカー症候群と呼ばれています。
ゼロエミッション	産業界における生産活動の結果、水圏、大気圏や地上圏等に最終的に排出される不用品や廃熱（エミッション）を、他の生産活動の原材料やエネルギーとして利用し、産業全体の製造工程を再編成することによって、循環型産業システムを構築しようとする考え方。
煤塵（ばいじん）	石油や石炭を燃料とするボイラー、自動車や発電用のディーゼルエンジン、廃棄物焼却炉などから排出される粒子状物質で、物が燃えた際に発生・飛散する微細な物質のこと。
低排出ガス車認定制度	自動車の排出ガスからの有害物質の排出が、最新規制値よりどのくらい削減されているか示すための制度です。自動車が国土交通省による低排出ガス車認定制度の認定を受けると、認定されたことを示すステッカー（低排出ガス車認定ステッカー）がリアウィンドウに貼られます。この認定を受けた自動車は、排出ガスのレベルに応じて、自動車税や自動車取得税を払う際に特例措置（軽減）の対象となります。



日華化学株式会社
NICCA CHEMICAL CO.,LTD.

〒910-8670 福井県福井市文京4-23-1
TEL :0776-24-0213 (代) FAX :0776-21-9227
発行 : 環境品質・安全衛生部会
発行日 : 2021年12月

当社の詳細についてはコーポレートウェブサイトをご参照ください
<https://www.nicca.co.jp/>

日華化学

検索



▲QRコードからもコーポレート
ウェブサイトへアクセスできます